

會則並に豫算を議決し菊池主事補の告辭ありて午後四時閉會した。

創立總會出席者

△小絹村長野本鷹之助、同助役中村督次郎、同書記吉田彌太郎△菅生村長鈴木敏同書記大瀧寅直△内守谷村書記兼子作治△坂手村助役石塚源吉△大井澤村書記谷田具市藏△大野村書記貝塚久彌△守谷町長古谷茂三郎、同書記同書記田中正△高野村長寺田通三郎、同書記渡邊留吉△稻戸井村書記海老原林次△高井村書記野口梅次郎

調査員訓練會出席者數

(菅生村)四名 (坂手村)八名 (内守谷村)四名 (小絹村)九名 (大井澤村)五名 (大野村)五名 (高野村)五名 (高井村)四名 (守谷町)七名 (稻戸井村)十名

統計調査員部會表彰

久慈郡中部統計事務研究會は四月二十三日金砂村役場に開催され併て中部研究會長より表彰の五ヶ年以上勤続後退職した統計調査員に對する表彰式が

舉行された、午前十時半菊池金砂村長開會を宣し、元高倉村統計調査員小室一郎外五氏に效績状を交付し郡司屬の祝辭があつて後、研究會に移り別記町村提出の協議事項並昭和八年度全九年度の決算報告を附議し午後二時閉會した。

協議事項

- 一、合筆調査に關する件(世喜村提出)
- 一、農林統計報告規則取扱細則に依る調査集計表の改正に關する件
- 一、統計調査員在職中死亡の場合統計協會總裁より弔辭並弔慰料を賜り弔意を表せられ度件(以上賀美村提出)

被表彰者

元高倉村統計調査員小室一郎、元梁和田村全石川健次、元賀美村全権名治昭、元世喜村全砂川信一、菊池徳重、元金砂村全中西忠隆

出席者

(縣)郡司屬(金砂)菊池村長、會澤書記(小里)小田部書記(賀美)助川書記(中里)鶴田書記(高倉)吉成書記(天下野)根本書記(梁和田)鈴木書記(金郷)荒井書記(世喜)古德書記

同	四月二十二日	久慈郡金砂村
同	中西 厚	(中西 忠隆)
同	四月二十二日	東茨城郡岩船村
同	平賀 金	(平賀 誠)
同	五月一日	北相馬郡高野村
同	長塚 富三郎	(石塚 定次)
同	岩田 正	(岩田 毅)
同	四月三十日	久慈郡賀美村
同	北野 新一郎	(北野 鷹之介)
同	石川 重太郎	(石川 源太郎)
同	大森 勇男	(権名 治昭)
同	五月二日	北相馬郡小絹村
同	飯田 一太郎	(中村 勝次郎)
同	五月三日	新治郡志筑村
同	坂野 滿雄	(坂野儀右衛門)
同	金子 俣	(市ノ澤 好光)
同	五月四日	猿島郡生子菅村
同	山口 吉三郎	(塚原 記三郎)
同	染谷 伊平	(染谷 和三郎)
同	片倉 伊十郎	(染谷 定四郎)
同	五島 武助	(金久保 善平)
同	板垣 義幹	(青木 長松)

沿海四十里

縹渺誇る霞ヶ浦

水産實に八百萬圓

本縣にのみ恵まれた無限の寶庫

縣統計課の調査

總額に於て百五十二萬

先頃、縣廳内に開かれた産業振興會議に於いて安藤知事がいはれた如く、本縣は生産物の需給關係上絶好な地の利を占めてゐる一方、四十里に垂んとする海岸線を有し、我國第二を誇る霞ヶ浦を擁することは、獨り本縣にのみ與へられたる天恵ともいふべく、この天然の寶庫を開けば水産無限の發展を語りて餘りあるものがある。本年四月縣統計課の調査したところによると、昭和九年における本縣の水産物總價額は實に七百八十萬九千二百一十一圓に上つてゐる、これを種類別に觀れば

◇沿岸漁獲物が二百八十一萬七千八百五圓◇遠洋漁業が百三十八萬八千九百七十六圓◇水産養殖によるもの三萬六千四百二十圓◇水産製造物が三百五十六萬五千八百二十圓となつてゐる、然してこれを前年に比べてみると

七千四百六十九圓(二割四分三厘)を増し、沿岸漁獲物で二十五萬四千九百四十六圓(九分九厘)、遠洋漁業に於て二十萬五千八百八十八圓(二割七分四厘)、水産養殖に於て四千四百三圓(一割三分八厘)、水産製造物において百六萬三千四百八十二圓(四割二分五厘)の何れも素晴らしい増加を示した。更にこれを郡市別にすると鹿島郡の二百三十三萬九千五百一圓が第一位で、多賀の二百二萬八千五百十八圓之れに次ぎ、那珂の百六十六萬九千四百九十圓、久慈の八十七萬四千八百八圓、東茨城の三十七萬五千二百八十四圓、行方の二十二萬七千七一圓、新治の十七萬三千四百六十八圓の順序となり、稻敷、北相馬、筑波、猿島、結城、眞壁、水戸、西茨城の順位に何

れも十萬圓に充たない、又これを種類別に各郡の順位をみる
と沿岸漁獲物では是亦鹿島の百一萬七千六百六十五圓を筆頭に
多賀の七十萬九千五百四十七圓、那珂の二十九萬五千二百五
十圓、久慈の二十六萬六千五百七十七圓、東茨城の十八萬八千五
百六十圓、行方の十三萬三千三百七十七圓、新治の十萬三千
四百十七圓といふ順をなし、稻敷、北相馬、猿島、結城、眞
壁、筑波、水戸、西茨城の順位で何れも十萬圓を越えない。

遠洋漁業では那珂郡が

第一位で九十九萬八千五百七十圓、之に亞ぐは多賀郡だが
非常な差額で十七萬一千七百七十六圓、久慈は十二萬五千五百
二十八圓、鹿島は四萬七千九百五十圓、東茨城は四萬五千七
百五十圓しかない、水産養殖では新治の一萬二百二十七圓が
首位で那珂は五千八百七十三圓、筑波は五千七百五十一圓、
鹿島は三千七十二圓、東茨城は二千六百三十八圓、水戸は二
千三百八十四圓、猿島は二千九十六圓、行方は千九百九十九圓
で、その他は何れも千圓以内である、水産製造物では鹿島郡
の百二十七萬三千三百四十四圓が第一位で多賀の百十四萬七千五
百二十六圓これに亞ぎ、久慈四十七萬七千八百九十九圓、那
珂三十六萬九千七百九十七圓、東茨城十三萬八千三百三十六
圓、行方九萬二千五百三十五圓、新治五萬九千八百二十四圓
稻敷八千五百八十九圓になつてゐる。而して

是に従事する水産業者

は二萬八千五百五十五人で、前年に比し八百六十七人三分一
厘を増してゐる。また漁船は

◇九年末現在船數六千五百八十二隻で内動力を有するもの
五百二十八隻◇九年内に新造せるもの七百十三隻で動力を
有するもの百七十一隻◇同年内廢用船六百五隻、内動力を
有するもの百九隻

で、之を前年に比べると年末現在數で九十七隻、年内新造
船が百五十四隻を増し、廢用船は二百二十五隻の増加である
是等漁船を郡市別にするに鹿島の千百三十八隻が首位で多賀
の八百七十五隻之に亞ぎ、行方の八百四十三隻、稻敷の八百
二十隻、東茨城の七百九十六隻、那珂の七百二十二隻、新治
の五百九十七隻、久慈の三百四隻、猿島の百九十隻、北相馬
の百四十三隻の順位となつてゐる。眞壁、結城、筑波、水戸
等何れも百隻を越えない。

以上水産物を種類別並に郡市別に示せば次の通りである。

郡名	總數	内			
		沿岸漁獲物	遠洋漁業	水産養殖	水産製造物
水戸	三、三三三	六二六	—	二、三六四	—
東茨城	三、五五五	一、八八八	—	一、六六六	—
西茨城	五、九九九	—	—	—	—
那珂	一、六六六	—	—	—	—
久慈	八、七七八	—	—	—	—
多賀	二、二二二	—	—	—	—
鹿島	二、二二二	—	—	—	—
行方	三、三三三	—	—	—	—
稻敷	六、六六六	—	—	—	—
新治	一、一〇一	—	—	—	—
筑波	一、〇〇〇	—	—	—	—
眞壁	七、七八七	—	—	—	—
結城	八、八八八	—	—	—	—
猿島	一、〇〇〇	—	—	—	—
北相馬	一、五五五	—	—	—	—
合計	七、九〇三	二、八七〇	一、三六六	三、五五五	—